(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2010年6月21日(月) NO 121
地域から明るい未来を作ろう

小さな幸せ

最近読んだ「小さな幸せに気づく」の本の中から・・・。

電球

松下幸之助さんといえば、誰でも知っている松下グループの創業者で「経営の神様」と呼ぶ人もいます。

松下さんが、工場でつまらなそうな顔をして電球を磨いている従業員に、「あんた、良い仕事をしてるえ～」と言ったそうです。

「毎日、同じように電球を磨くだけの仕事ですよ」と愚痴を言う従業員に、

松下さんは、「本を読んで勉強している子供がおるやろ。そんな子供らが、夜になって暗くなったら、字が読めなくなって勉強したくても出来なくなる。

そこであんたの磨いた電球をつけるんや。そうしたら夜でも読みたい本を読んで勉強できるんやで。

あんたの磨いているのは電球やない。子供の夢を磨いているんや。

暗い夜道があるやろ。女の子が怖くて通れなかった道に、あんたが磨いた電球がついたら、安心して笑顔で通れるんや。もの作りはものを作ったらあかん。その先にある笑顔をつくるんや」と言いました。

毎日が忙しいと、「なぜ、この仕事をやっているんだろう?」と思うことがあります。

人の笑顔を作る仕事が出来たときに、自分も笑顔になれるのだと思います。

◇　◇

日経新聞の本田宗一郎、私の履歴書からです。

製品の美と芸術

あんまり美人でなくとも、姿の良い女のかたがいる。自分は顔よりも姿に深い関心を持っている。顔の造作は生まれつきだが、姿を生かす殺すは頭の働きによって定められる。まことに姿は鏡だと思う。

上品にも、端正にも、下品にも、知能のいかんはすぐうかがえるものだ。オートバイにも、やはり姿がある。自分の信念では、姿よければ内容、すなわちエンジンの構造、機能が充実していると思う。

私は上品で、端正で、少し色気がある姿が好きだ。・・・日本の機械工業は諸外国に全部負けているけども、自分はオートバイの製造を天職と思い、こればかりは諸外国に劣らぬ絶対美しい姿で実現したい。必ず実現したい。・・・現代の卓越した技術者は、優れた技術者と同時に秀でた芸術家でなければならない。科学の知恵と芸術家の感覚とを併せもたなければならない。

（一九五二年二月）

自転車のフレーム、傘も骨が命。知恵と芸術の固まりだ。戦闘機に見た研ぎ澄まされた機能美に無駄はない。人も骨が命、心が肝心だ。

アイデアと資本

石川県の人は特に大（強者）御上に依存体質が徳川幕府と戦後の占領政策で形成され続いているようです?。反骨気概の人物は意外に少ない。これは北陸の自然環境、農耕文化なのかもしれない。

新自由主義が跋扈し、資本の優位はアイデアの優劣に完全に移行している。

ソニーが世界を席巻していた時代から何が変わったのでしょうか。勝敗は資本力でしょうか。

アイデアの差です。お金でも物でもありません。人し使って覚える。頭で理解する日本の分厚いマニュアル本はありません。

読まなくても世界の誰もが操作出来るようになっています。

時代に先駆けるアイデアが企業を繁栄に導く。従って資本の優位性は完全に後退してきています。政権交代の時代、中小零細企業でも十分戦え個人も同様です。

アイデアは人しなのです。アイデアは人しか気付きません。人の文化です。

アップルの電子端末は、説明書がありません。動か